

# 中国短期留学の問題点と課題について： 2012年夏季中国語イメージプログラムをふりかえって

王 振宇

## アブストラクト

2012年の8月5日から9月1日にかけて、立命館アジア太平洋大学（以下、APUと略称）の夏季中国語イメージプログラムを中国東北財経大学で実施した。18名の中国語履修生がこの4週間の短期留学に参加した。筆者は引率教員として今回のプログラムの企画、実施に携わってきた。プログラムは事前授業、現地研修、事後授業からなっている。学生たちは中国語を学習すると同時に、中国文化や社会の観察などを通して多様な成果を得ることができた。日本のメディアやインターネットの情報だけに頼っても分からない中国の姿を全面的、かつ客観的に捉えることができたと考える。本稿ではまずAPU中国語イメージプログラムの概要について紹介する。次にプログラムの内容をふりかえってみる。さらに、参加学生を対象に実施された2回のアンケート調査の結果をまとめながら、中国短期語学留学の問題点について考える。最後に、学生のレポートを通して今回のプログラムの成果、意義、今後の課題について述べる。

**キーワード：**イメージプログラム、集中言語研修、異文化理解、中国語

## 1. APUの夏季中国語イメージプログラムについて

夏季実施の中国語イメージプログラムは「海外集中言語研修」として実施されるAPUの正課科目である。このプログラムは2006年からスタートし、毎年8月から9月にかけて中国の東北財経大学国際漢語文化学院（IICLC）で実施される。このプログラムでは、現地での語学・文化研修に加えて、担当教員により事前授業と事後授業が開講され、派遣前には実習準備と、帰国後は実習中の成果や経験の振り返りが行われる。4週間の研修期間を終えて成績評価に合格すれば、2単位が付与される。

実施校の東北財経大学は中国東北の遼寧省大連市に位置する。大連市は中国東北三省で経済が最も発展している人口600万の国際都市である。昔から日本との関わりが深く、現在日系企業を含め、多くの外資系企業が進出している。東北財経大学は経済学、経営学を主とする総合大学であり、現在、経済学部、経営管理学部、法学部、文学部、理学部の5つの学部と経済学、経営学の大学院やMBA、MPA学院を有する。同大学には2万人余りの学生が在籍している。

APUの中国語イメージプログラムの目標は次の2つに設定されている。一つは、参加学生が留学先で中国語の授業や文化講座、経済講座、中国人学生との会話練習などの活動を通して、“听、说、读、写”（「聞く、話す、読む、書く」）という四技能を磨き、中国語運用力を向上させることである。もう一つは、参加学生が中国での生活を通して、中国の地域文化を体験して、中国文化や中国人の考え方に対する理解を深めることである。

## 2. 2012年夏季APU中国語イメージプログラムの内容

中国語イメージプログラムの参加学生はアジア太平洋学部と国際経営学部の学生であり、APUで中国語を半年または1年間履修している学生である。プログラムはAPUでの事前授業、事後授業と東北財経大学での短期留学からなっている。

引率教員は胡興華先生と筆者である。APUアカデミック・オフィスの協力を得て、2012年4月に2回の説明会を開き、学生にプログラムへの参加を呼びかけた。その後、申請者を対象に、志望動機や語学力に関する書類審査と面接を行い、18名の参加者を選出した。5月から7月にかけて、参加学生を対象に4回にわたり、事前授業を行った。引率教員は事前学習のレジュメや大連と東北財経大学の紹介資料を用意し、現地の歴史や現在の様子、市民生活などを学生に分かりやすく説明した。また、中国語実用会話集を作成してとっさの時のための中国語会話や問題が発生した場合の対処方法を教えた。8月5日から9月1日にかけて、2名の教員が引率して大連に赴き、4週間の短期留学を行った。帰国後の10月2日に事後授業を行った。参加学生が留学の成果をPPTや写真などで発表した。最後に、参加学生の提出したレポートと中国語の作文を集めて報告書にまとめた。

## 2.1 事前授業

事前授業は4回にわたり行った。この4回の授業内容は次のとおりである。

第1回の授業 (6月06日(水) 14:15~15:50)

内容: ① 学生による自己紹介、留学動機について説明した。

② 東北财经大学の概況について学んだ。

③ 中国の概況 (中国南北の風習、気候、気質、食生活など) に関する知識を学んだ。

④ 次の授業で発表する課題を与えた。

- a. 北方中国と南方中国の境界は、中国人の意識の中ではどのあたりにひかれているか?
- b. 北方中国と南方中国の顕著な違いを示すものを二つか三つ、具体的な事例を挙げて指摘しなさい。また、その原因として考えられる歴史的地理的背景などにも触れなさい。
- c. 大連の言語、風習、気候、食生活などの特徴

第2回の授業 (6月13日(水) 14:15~15:50)

内容: ① 先週の課題の発表を行った。

② 日本人と中国人の行動様式の違い (対面、客の接待、買物、住、贈り物、仕事) に関する知識を学んだ。

③ 大連市の歴史について学んだ。

④ 次の授業で発表する課題を与えた。

日常生活の場面で垣間見られる日本人と中国人の行動様式の違いを二つか三つ、具体的な事例で示しなさい。また、もし可能なら、その原因として考えられる歴史的地理的背景などにも触れてください。



第3回の授業 (6月27日(水) 14:15~15:50)

内容: ① 先週の課題の発表を行った。

② 中国語の諸特徴 (共通語と方言) に関する知識を学んだ。

③ 東北财经大学周辺、大連市の地理、経済などを学んだ。

④ 中国語日常生活の会話集 (宿舍設備の修理、鍵の紛失、病気などのシミュレーションを想定し、とっさの時のための小冊子『東北财经大学短期留学实用汉语会话集 Practical Chinese Conversations for the Immersion Program at DUFE』を作成し、参加学生に配布した。

⑤ 次の授業で発表する課題を与えた。

- a. 中国語と英語の言葉の並べ方 (syntax) で決定的に異なる点は何でしょうか?
- b. 中国語と英語の語法の大きな違いを三つ以上あげ、わかりやすく説明して下さい。
- c. 中国語で重要な役割を果たす補語とはどういうものをさすのでしょうか? 英文法でいう補語とはどう違うのでしょうか? はじめて学ぶ人がわかるようにやさしく説明してください。
- d. 中国の代表的方言はいくつですか。それぞれどんな特徴がありますか。

第4回の授業 (7月11日(水) 14:15~15:50)

内容: ① 滞在中、学習上と生活上の注意事項 (夏の飲食、買い物、貴重品管理、人身安全管理、公共交通、現地での予習復習、行動など) の説明や安全管理について授業をおこなった。禁止事項などが明確に記載された紙を配った。

- ② 『東北财经大学短期留学实用汉语会话集 Practical Chinese Conversations for the Immersion Program at DUFE』を用いて会話練習を行なった。
- ③ イマージョンに参加する学生は来月東財で2つのクラスに分かれて勉強することになっている。そのため、中国に行く前にクラスを分ける必要がある。現在のクラスと実際の語学能力に基づき、18名の学生を2つのクラスに分けた。中国語Ⅰは7名、中国語Ⅱは11名となった。最後に、学生自身に立候補してもらい、2名の学生代表が選出された。中国語Ⅱのクラスには女子学生が多く、主代表が男性になったため、もう1名の女子代表を選ぶ必要がある。本人の希望を聞いたうえで、副代表を指定した。

## 2.2 現地研修

東北财经大学での4週間の学習の内容は、①中国語授業（会話授業、総合授業）、②中国文化講座、中国经济講座、③工場などの見学、④旅順「二〇三高地」見学や京劇鑑賞などの活動である。詳細については「資料 東北财经大学イマージョンプログラムの日程表」を参照されたい。

## 2.3 事後授業と報告書の作成

中国における短期留学の成果を確認する目的で、2012年10月3日、2時間にわたる事後授業を行った。事後授業では、学生がPPT、写真を用いて中国滞在中の見聞や感想を発表した。

最後に、学生に日本語・英語のレポートと中国語の感想文を提出させた。学生は中国の文化、社会、歴史など多くの分野にわたってテーマを選び、日本の状況と比較しながら、レポートを書いている（その一部を第4節に挙げる）。

引率教員は学生が提出したレポートと作文を編集し、『立命館アジア太平洋大学 2012年夏季中国語イマージョンプログラム報告書』（116ページ）にまとめた。

## 3. 2012年夏季APU中国語イマージョンプログラムの問題点について

今回のプログラムが実施される前と実施された後、参加学生を対象に2回のアンケート調査を行った。2回はいずれも質問紙によるアンケート調査であり、18名の参加学生全員が調査に協力した。本節ではこの2回の調査結果をまとめながら、プログラムの問題点について見る。

まず、中国に行く前に実施された調査の結果を見てみよう。表1は「なぜプログラムに参加しようと思いますか？」という参加動機に関する質問への回答をまとめたものである。このうち、「中国語学力を伸ばしたい」、「中国語をもっと磨きたい」などの回答が最も多く、15回答である。その次に多いのは「中国文化を知るため」との回答であり、12回答である。ほかに、「中国での生活を体験してみたい」（7回答）や「将来の就活に活かしたい」（6回答）などの答えも多い。これらに対し、「単位を取るため」と回答した学生はただ1名であった。このような調査結果から、殆どの学生は明確な目標を持って、このプログラムに参加したことが分かった。

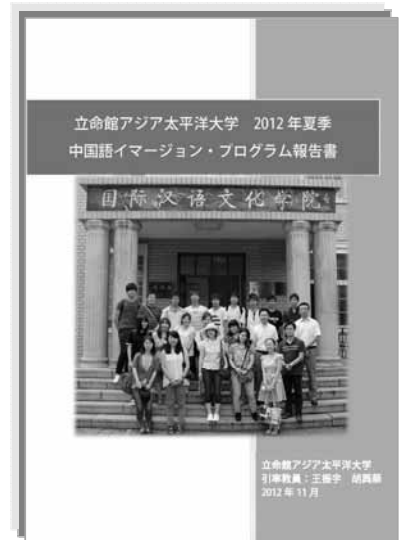


表1 「なぜプログラムに参加しようと思いますか？」の回答

回答	回答数
中国語を上達させるため	15
中国文化を知るため	12
中国での生活を体験してみたいから	7
中国に興味を持ったから	6
将来の就活に活かしたい	6
中国人と交流したいから	5
クラスメートと共同生活したいから	3
夏休みを充実させたい	2
中国へ行くのが初めてだから	2
長期留学を考えているから	1
単位を取るため	1

そして、「プログラム参加後、あなたは何を達成したいですか、または、どのように変わってほしいですか？」という質問に対して、次のような回答が得られた。

- ① 中国のイメージを良く感じる
- ② 中国や中国人に対する見方を変化させたい
- ③ 簡単な中国語が口から出るようになっている
- ④ 中国語が聞き取りやすくなっている
- ⑤ 中国人と積極的に話せるようになっている
- ⑥ 中国のいろいろな文化を勉強したい
- ⑦ 大連についてよく知る
- ⑧ 単独ではなく協同してある一つの課題の解決にあたる姿勢を養いたい
- ⑨ 自分で考える力をつける
- ⑩ 世界の視野を広げる
- ⑪ 社会的になりたい

次に、日本に帰った後、実施されたアンケート調査の結果を見てみよう。以下は生活に関する質問とそれに対する回答状況である。

① 気候への適応について：時差・気候には慣れましたか？

「はい」と答えた学生は16名、「いいえ」と回答した学生は2名である。殆どの学生は中国の時差・気候に早く慣れることができたようである。

② 健康面で不安なことはありませんか？（食生活、睡眠など）

「不安なことはなかった」と回答した学生は9名、「不安なことがあった」と回答した学生が9名である。そして、不安な内容については「風邪を引いた」、「お腹を壊してしまった」と答えた学生が多い。

③ 宿泊施設について問題はありますか？

「なし」と回答した学生は7名である。ほかの11名は「問題があった」と回答した。問題点は「虫が多い」（7人）、「トイレなどの故障」（4人）などに集中している。

④ 問題があった際、誰に相談しましたか？

「現地の先生」と回答した学生が14名である。「寮の管理人」、「友達」などと回答した学生もいる。

勉強面については次のような回答状況であった。

① どのくらい授業を理解できましたか？

「90%」、「全部」、「ほとんど理解できた」などと回答した学生が9名である。「8割」と答えた学生は2名、「70%」と答えた学生は2名、「3分の2」と答えた学生は1名、「半分以上」と答えた学生は3名、「40%」と答えた学生は1名である。

② (授業の) どのような面が大変でしたか？

「なし」と回答した学生が18名のうち、12名で大半を占めている。「問題あり」と答えた6名の回答のうち、3名が「中国語による文法の説明が大変だ」と書いている。これは、一部の学生がAPUの中国語初級クラスで殆ど日本語による中国語の文法説明を聞いていたため、中国語で文法説明を行う授業にすぐには馴染めなかったからではないかと考えられる。

③ 興味のある授業、ためになる授業やプログラムは何ですか？

「チューターとの会話練習」と回答した学生が10名で最も多い。チューターは東北財経大学のボランティア学生である。4、5名のAPU生に1名のチューターが付き添い、週二〜三回、中国語会話練習のパートナーを務める。このようなチューター制度は東北財経大学側によると、同大学短期留学プログラムの特色だそうである。また、その次に学生が興味をもったプログラムは「書道の授業」である(4回答)。

④ 授業の後は、どのような勉強、活動をしましたか？

中国人チューターとの交流活動(たとえば、中国語の会話練習や買い物など)と回答した学生が12名で大半を占めている。

⑤ ランゲージパートナーとの活動やコミュニケーションはうまくいきましたか？

「はい」と答えた学生が17名でほぼ全員である。

⑥ プログラム開始前の事前授業や準備で、ここでの勉強に役立ったことは何ですか？また、もっと準備しておくべきだったと思うことがありますか？

前者の質問については「大学の周りの情報を知っていてよかった」と回答した学生が8名で最も多い。後者については「もっと日常会話の練習をしておくべきだった」と回答した学生が12名で最も多い。

#### 4. 2012年夏季東北財経大学イメージョンプログラムの成果と意義について

今回のイメージョンプログラムには、15名の日本人学生に加え、韓国出身の学生2名、タイ出身の学生1名が参加した。殆どの参加学生にとって、今回が初めての中国であった。学生たちはこれまで中国に関する情報について、殆どテレビやインターネットなどのマスコミを通して入手していた。4週間という短い期間ではあったが、大連で中国語を学習すると同時に、中国文化や社会の観察などを通して多様な成果を得ることができた。また、授業以外の時間に中国人学生と交流し、キャンパスを出て自らの目で今日の中国社会、中国文化、中国人の生活を観察することができた。これらのことは彼らにとって大きな財産となるに違いない。今回のプログラムの成果は学生のレポートや発表から、大きく次のような3点にまとめることができると考える。

##### 4.1 中国語運用能力の向上

APUの学生は4週間の集中学習を通じて、中国語の聞き取り、会話、読み、書きといった総合能力を一段と高め、中国語学習への興味

とモチベーションを高めることができたといえる。たとえば、学生M.Tさんはレポートの中で次のように述べている。

私はもっと中国の事をより深く理解し、中国語をもっと勉強していきたいなと思いました。私はこのイメージョンに参加してから中国語の勉強が終わったとは全く思っていない。むしろこれからがスタートだなと思いました。向こうで出会った中国人学生や日本人の社会人の人などからたくさん話を聞きました。この経験をどう生かすかは私次第ですが、少なくともこれから中国語を勉強する上での目標や目的は見えてきたかなと思います。これからさらに高みをめざし、がんばっていきます。(学生M.Tさんのレポートより)

アンケート調査の結果からもわかるように、ほとんどの学生は東北财经大学における中国語の学習環境(中国人学生との会話練習、媒介言語を一切使わない授業)に満足している。

引率教員の私たちは今回のイメージョンプログラムに参加した学生と参加しなかった学生との間の大きな相違点に気がついた。それは参加学生たちは私たち中国語教員に会った時、自ら中国語で話しかけてくることである。この変化は参加学生の中国語学習に対するモチベーションの向上を裏付けるものである。

#### 4.2 異文化に対する適応力の向上

APUは「国際相互理解」を基本理念の一つとしている。異文化を理解するには適応力が不可欠な素質だと考える。

今回の中国語イメージョンプログラムは中国語の学習に限らず、参加学生が視野を広げ、異なったものの考え方や中国文化を知ることにつながっている。出発前、中国の状況を自分なりに理解しているつもりでも、現実に行ってみると日本とは大きく異なる生活環境であることを痛感する参加学生が少なくない。参加学生は観光を通して大連の著しい発展を感じた。中国人学生とレストランで食事を楽しみながら、中国の食文化を体験した。スーパーマーケット、地下商店街で買い物をする等々の活動を通して現代の中国を知り、日本人とは異なる中国人のものの考え方を理解した。学生のレポートと作文からわかるように、ほとんどの参加学生が今回のイメージョンプログラムで文化・習慣などの違いによるカルチャー・ショックを経験したが、いろいろな困難を克服して異文化に適応するようになった。次は数名の参加学生のレポートの一部である。

中国と日本はお互い学ぶべきことがあるということを知り、中国滞在中に学んだ。上記で述べたように、中国に行ってはじめて知ることが数多くある。日本では、あまり考えられないようなことに驚き、困惑する場面もあった。しかし、「郷に入っては郷に従え」という言葉があるように、その環境や習慣に自分が順応しなければ、その国の文化や歴史、生活習慣など、幅広い知識は身につかないということを知った。かつ、まわりの関係を大切にすることや、勉学に励み自分の目標を達成するなど見習うべきところもあり、今後、さらに中国のことを理解し、学習するための励みになったことは確実である。(学生S.Mさんのレポートより)

中国と日本では違いがいくつか見られたが、その違いを受け入れて過ごすことが異国の地で生活することの重要なものではなかつたかと改めて肌で感じた。食事のマナーにおいても、その国のしきたりに従うことが大切で、不思議だと感じていてもそれを受け入れて生活することでさらに現地へ近づくことができるのである。違いがある事を受け入れて外国で生活する事は見方が変わるとも重要な事だと心から確信した。(学生Y.Sさんのレポートより)

私が今回の中国大連市の東北财经大学に行き成長したことは、まずは中国文化への慣れだ。最初の頃は、他の人に頼っていた買い物や会話を自分なりのペースで自分自身で行うようになった。また、中国への渡航前は中国に対して偏見の目で見ている部分もあったが、実際に目の前で見ると中国に対して判断する力がついたと考える。(学生M.Yさんのレポートより)

今日中関係は尖閣諸島問題など悪化している。さらにそれらの問題について話し合おうともせず、お互いの国民性までも否定しようとしている。対極に位置する性質を持つ日本人と中国人。この2つの性質がうまく合わさるのが単純ではあるが理想的な

であろう。もちろん、現実はそのようではない。しかしそんなことは当然であってだからこそ違う国の人種なのであろう。やはり何事も相互理解が必要なのだと中国を実際に経験して強く感じた。(学生 Y.M さんのレポートより)

学生は旅順「二〇三高地」の見学、京劇観賞、国有企業参観、経済技術開発区見学を通して大連及び近代中国の歴史、中国文化、中国経済を学ぶことができた。たとえば、日中関係や歴史については、学生らはレポートで次のように述べている。

今まで私は、日中間の問題について日本の視点からしか見ていなかった。これは愛国心だとか政治的観念からくるものではなく、単純にただ私が日本に生まれ、日本に育ち、そして日本で生きていたため中国から見た視点というものを獲得する機会がなかったためである。この一ヶ月で、即、中国からの視点が完全に得られたとは感じない。ただ、決して無駄ではなかったと思うし。中国人の考え方も完全に理解できたとはいえないものの、少しはわかった。私はまた一つ、視点を増やすことができたことをうれしく思っている。(学生 N.H さんのレポートより)

私が今思うのは、日本人が中国人に対して偏見を持たないでほしいということ。日中関係が悪化している今、日本のメディアが中国人の悪いところをピックアップして、イメージが下がっている。確かにあのデモも事実だし、実際にあれに参加している人まで好きにはなれない。だからといって、中国人は頭おかしいみたいな事を言っている人を見ると憤りと悲しみを感ずる。今後日中関係が修復に向かい、徐々に中国人の若い世代が台頭してイメージの改善ができていけたらいいと思う。(学生 T.K さんのレポートより)

今、日本と中国の政治は対立し、中国ではデモや日本バッシングが相次いでいます。しかし、中国は僕たちがテレビで見ているような感じではないと改めておもいました。私は向こうでバスケットボールを中国人の学生たちとしていました。そのとき思ったのは、言葉は通じなくても同じスポーツであったり、チームであったりしているときでも国境は関係ないと思いました。普通に楽しくすることができ、テレビで映っていることが嘘のようでした。(学生 M.T さんのレポートより)

#### 4.3 協調性の獲得

多くの学生はレポートの中で、異国の地での集団生活を通して、他の学生との協調性を身につけることができたことと述べている。

1 か月見知らぬ土地にいてストレスも溜まったり慣れないこともあったが他の生徒と協力して過ごすことが出来たので協調性が身につけることが出来たと考える。今回の海外研修では、中国語能力の向上だけでなく、新しい価値観、人との協調性を学ぶことが出来た。(学生 M.Y さんのレポートより)

私はこの中国イマージョンで様々な経験をすることができました。そして異国の地に1ヶ月もいることが初めてで、大変なこともありましたが、克服したり、友達に助けってもらったりで、とてもいいイマージョン・プログラムでした。(学生 M.T さんのレポートより)

今回のイマージョンプログラムを通して得た経験は、参加学生の今後の勉強や生活、さらに卒業後の活躍に大いに役に立つものである。参加学生はこの留学生活の貴重な体験を通して成長し、自分と向き合う機会を得ると同時に、将来の進路や方向性に関する重要な手がかりを見出すことができると考えられる。

APUの「言語イマージョンプログラム『海外集中言語研修』募集要項」は短期留学の教育目標を次の3点に定めている。

- (1) APUで提供されている言語教育科目(英語及びAP言語科目)を補充し、当該言語の使用されている国・地域で徹底した言語訓練を施すことによって、言語の運用力を強化します。
- (2) 当該言語の使用されている地域の言語や文化、社会に対する知的好奇心をさらに高め、今後の言語学習への動機

を高め、同時に言語学習と学部専攻分野での学習・研究との接点を深く考える機会とします。

- (3) 当該地域の学生・市民との交流を通じて、異文化を理解尊重し、相互理解に努める精神を涵養することを目標としています。

前述したように、参加学生はさまざまな角度から中国と大連に対する認識を深めることができた。学生たちは異国の地での生活を通して、多くの困難に耐えうる精神力と体力を身につけ、中国の文化に直接触れたことによって、中国と母国の共通点・差異、特に中国人と日本人の意識や表現の違いを実感することができたと思う。

以上、2012年中国東北財経大学におけるAPU夏季中国語イマージョンプログラムは、定められた「教育目標」を達成し、豊かな成果をあげたとと言える。

## 5. おわりに

2013年夏に実施予定の中国語イマージョンプログラムは応募者が6人未満のため、中止を余儀なくされた。その原因として日中関係の悪化や中国の環境問題に対する不安などによる影響が考えられる。しかし、このような時期だからこそ、イマージョンプログラムのような若者が主体となる民間の国際交流活動が勇躍し、日中両国の相互理解と信頼の増進に役割を果たすべきではないかと考える。

杉田欣二(2012)は次のような観点を述べている(下線部は筆者)。

執拗に映し出される反日暴動の映像で嫌中感を増し、ネットでつぶやいている場合ではない。「ヴ・ナロード」、日本の国民も企業も政府も中国から遠ざかるのではなく、逆に「中国人民の中へ」深く入り込み、裸で四つに組んで運命共同体としての認識を共有するときだ。

中国語イマージョンプログラムはまさに中国社会に「深く入り込む」ことそのものである。現地での生活を通して、日本のメディアやインターネットの情報だけに頼っても分からない中国の姿を全面的、かつ客観的に捉えられる絶好の機会である。今後、こうした語学研修の意義を積極的に学生に伝えることは日本の中国語教育の現場において、語学と同様に重要な位置を占める課題であると思う。



### 参考文献

- 王振宇、胡新華編（2012）『2012年夏季立命館アジア太平洋大学中国語イマージョンプログラム報告書』
- 杉田欣二（2012）「一つの土俵でがっぷり四つに 明天会更好」『国際貿易』コラム「中国潮流」（2012年11月27日）
- 曹瑞林、張文青、李秀麗、王蕊、王振宇、吳青姫（2010）「中国の名門大学における外国人学生向け中国語教育」『ポリグロシア 言語と言語教育—アジア太平洋の声』第20巻。立命館アジア太平洋研究センター
- 立命館アジア太平洋大学編（2012）『2012年度夏期実施 言語イマージョンプログラム「海外集中言語研修」募集要項』（第1版）。立命館アジア太平洋大学

資料 東北財経大学イマージョンプログラムの日程表

週	日程		午前	午後
	8/5	日	15:10 CA954で福岡空港出発⇒大連空港送迎バスで大学へ⇒16:10入寮	
第一週 中国語授業(16学時) 中国経済授業(2学時) フィールドトリップ(8時間) チューターとの学習(6学時)	8/6	月	09:00 開学式	13:10 大連市内見学
	8/7	火	中国語授業:08:10—09:50 会話;10:10—11:50 精読	13:10 チューターとの紹介
	8/8	水	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:10 中国経済講座-1
	8/9	木	中国語授業:08:10—09:50 会話;10:10—11:50 精読	13:10 チューターとの学習
	8/10	金	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:10 チューターとの学習
	8/11	土	8:30 旅順203 高地見学	
	8/12	日	自由活動	
第二週 中国語授業(20学時) 中国経済授業(2学時) 中国文化講座(2学時) フィールドトリップ(5時間) チューターとの学習(4学時)	8/13	月	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:10 チューターとの学習
	8/14	火	中国語授業:08:10—09:50 会話;10:10—11:50 精読	13:10 中国文化講座-2
	8/15	水	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:00 開発区見学
	8/16	木	中国語授業:08:10—09:50 会話;10:10—11:50 精読	13:10 チューターとの学習
	8/17	金	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:10 中国経済講座-2
	8/18	土	13:10 中国古代京劇観賞	
	8/19	日	自由活動	
第三週 中国語授業(22時間) 中国文化講座(4時間) フィールドトリップ(3時間) チューターとの学習(4学時)	8/20	月	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:10 チューターとの学習
	8/21	火	中国語授業:08:10—09:50 会話;10:10—11:50 精読	13:10 中国語歌習う
	8/22	水	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:00 大連企業見学
	8/23	木	中国語授業:08:10—09:50 会話;10:10—11:50 精読	13:10 チューターとの学習
	8/24	金	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:10 中国文化講座-3
	8/25	土	自由活動	
	8/26	日	自由活動	
第四週 中国語授業(21学時) 中国文化講座(2学時) チューターとの学習(4学時)	8/27	月	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	13:10 チューターとの学習
	8/28	火	中国語授業:08:10—09:50 会話;10:10—11:50 精読	13:10 中国書道講義
	8/29	水	中国語授業:08:10—09:50 精読;10:10—11:50 会話	自由活動
	8/30	木	中国語授業:08:10—09:50 会話;10:10—11:50 精読	13:10 チューターとの学習
	8/31	金	8:10—11:50 最終試験	17:00 卒業式(歓送会)
	9/1	土	11:20 CA953で大連空港から帰国(空港まで送り)	